

<p>■After</p> <p>建築名称 下段: 英語名</p>	<p>新宿住友ビル</p> <p>SHINJUKU SUMITOMO BUILDING</p>		
<p>建築用途</p>	<p>大分類</p> <p>事務所、集会施設</p>	<p>小分類</p> <p>オフィス、広場</p>	
<p>改修設計者</p>	<p>日建設計</p>	<p><a href="#">URL</a></p>	
<p>所在地</p>	<p>東京都新宿区西新宿2-6-1</p>	<p><a href="#">Google Map</a></p>	<p>After</p> <p>ガラス屋根が架けられた三角広場</p>
<p>改修年</p>	<p>2020年</p>		<p>撮影者 提供者</p> <p>撮影: 桐原武志 2021年</p>
<p>建築規模</p>	<p>規模: 地上52階 地下4階、延床面積: 177,471.㎡</p>		<p>概要 after</p> <p>特定街区制度上、屋根を架けることが極めて難しかった屋外広場にガラスの大屋根を架け、広場を活性化</p>
<p>掲載書誌</p>	<p>新建築2020年9月号</p>		
<p>関連事項</p>	<p>賞: CTBUH Awards Renovation :Excellence、MIPIM Asia Awards:Silver、日本不動産学会業績賞 :国土交通大臣賞、</p>		
<p>■Before</p> <p>建築名称</p>	<p>新宿住友ビル</p>		<p>概要 before</p> <p>淀橋浄水場跡の建設された超高層ビル街の草分け的存在。ビル足元の広場の活性化が課題であった。</p>
<p>建築用途</p>	<p>大分類</p> <p>事務所</p>	<p>小分類</p> <p>オフィス</p>	
<p>■写真</p> <p>Before</p> <p>ガラス屋根が架かる前の三角広場</p>	<p>After</p> <p>空撮: ガラスの大屋根の形状がよくわかる</p>	<p>After</p> <p>旧広場のレンガが広場の壁に、淀橋浄水場蝶型弁がオブジェとして継承されている</p>	  
<p>撮影提供者</p> <p>撮影: 桐原武志 2003年</p>	<p>撮影提供者</p> <p>提供: 住友不動産</p>	<p>撮影提供者</p> <p>撮影: 山田武仁 提供: 住友不動産</p>	
<p>■リノベーション内容</p>	<p>キーワード</p> <p>増築、被覆、痕跡、屋内化</p>	<p>内容</p> <p>&lt;「理想の公共空間求め、未来に挑む」より&gt; 山田武仁 (住友不動産株式会社 ビル事業本部)・・・三角ビルは、単なるオフィスビルではなく、日本初の複合超高層ビルです。いまでこそ珍しくないですが、夜景を見ながら食事ができる展望レストラン街、下層階にはスポーツ施設や、カルチャーセンターがあり、地下はきらびやかな宝石店が軒を連ねていました。地下から最上階まで、いわばひとつの立体的な街になっていました。その弁慶の泣き所が、人が行き交い賑わうはずの広場でした。ビル風が強く、春一番や木枯らし、台風するときなどは、エントランスホールに行くまで命がけという感じでしたから。元の三角広場では公共空間として、さまざまなイベントが一年中企画されていましたが、雨天や強風で中止になるという問題点を抱えていました。そこで、天候に左右されずに、365日24時間快適に利用できる広場にできないかというのが、私たちの課題でした。簡潔に言えば、風雨に悩まされてきた広場を生きた広場として再生したいというのが、私たちが掲げた理想像でした。その具現化に悩んでいた時に会ったのが、日建設計からの大屋根パース提案。</p>	
<p>■備考</p>			
<p>■作成者 氏名/所属</p>	<p>桐原武志/Free JIA再生部会</p>		<p>管理者 記載</p>